

## 多読のススメ：英語との新しい向き合い方

人文学部 人間文化学科 准教授 森田 光宏

「英語が大嫌いなのですが、どうしたら好きになれますか?」「英語が好きなのですが、全然できるようになりません。どうしたら良いですか?」…毎年、同じ質問を受けるが、ここ数年は「多読に挑戦してみませんか」と答えている。「多読」とは読んで字の如く、たくさんの本を読むということである。では、どんな本を、どんな方法で読んだらいいのだろうか?

多読に最も適した本として、**Graded Readers (GR)**がある。**GR**の良いところの一つは、読むのに必要な語彙数を基に、レベルが付いている点である。たとえば、**Oxford Bookworms**の**Stage 1**では、読むのに必要な語彙は300～400語程度(中学2年生レベル)である。これが**Stage 2**になると、700語程度(中学3年生レベル)になる。レベルを選ぶ目安は、パラパラとページをめくって、1ページに知らない単語が1～2語程度であること。それ以上に分からない単語があると、皆さんが英語を嫌いになった、1語ずつ知らない単語を調べて、意味が通るように並べ替える、あの暗号解読式英語読解になってしまう。あくまで、辞書を引かなくても読み進められる本を選ぶのがポイントである。

もう一つの良い点としては、ジャンルやトピックの豊富さがある。例えば、「トムソーヤの冒険」や「クリスマス・キャロル」などの古典的名作から、「ブラッド・ピット」や「マドンナ」などの有名人の話、シャーロック・ホームズの探偵小説シリーズ、さらに、ホラーやミステリー、恋愛ものやドキュメンタリーなどがある。これら多彩なジャンルやトピックの中から、自分が好きなものを探して読んでも良いし、昔読んだけれど忘れてしまった話や、タイトルは知っているけれど読んだことのない話を読んでも面白い。ここで大事なのは、読み進めていって、つまらなそうと感じたら、別の本にすぐ切り替えること。多読は読みまくることが重要なので、自分にとって面白いと感じる内容の本を探すことがポイントとなる。



ここまで、多読のポイントを述べてきた。まとめると、次の2点となる。

☆辞書を引かなくても読める本を探す

☆面白くなければ次の本へ

多読をするには、大量の本が必要である。何を隠そう山形大学中央図書館は、東北で随一と言われる**GR**蔵書がある(注)。山形大学の学生は非常に恵まれた環境にいるのである。面倒臭がらずに一度、**GR**の中から数冊を手にとって、パラパラとページをめくってみることをおすすめする。英語に対して、これまでと違った向き合い方をしている自分に気が付くだろう。(もりた みつひろ)

注：『多読多読マガジン 6月号 (Vol.8)』  
全国92図書館蔵書ガイドに掲載。

【参考文献】

酒井邦秀 著

『さよなら英文法!多読が育てる英語力』筑摩書房

古川昭夫・伊藤晶子 著『100万語多読入門』コスモピア

多読用図書“Graded Readers”各シリーズは中央図書館3階・請求記号837.7に配架しています。貸出できますので、どうぞご利用ください。